会　議　録

平成３０年５月１７日

日　時	平成３０年５月１７日（木）１４：００～１６：１０
場　所	総合文化センター　視聴覚室
件　名	平成３０年度　第１回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員：小栗正敏、羽柴誠、安藤隆宏、酒井周文、安藤徳善、龍頭美雪、有賀秀雄、永井研、吉田生子、吉村美信 事 務 局：奥村勝彦（教育委員会事務局長）、大山雅喜（社会教育課長）、遠藤晶子（社会教育課課長補佐）、野田祐作（社会教育課主査） 欠 席 者：三浦晶子
議　題	**１　委嘱状交付** **２　あいさつ** 事務局長よりあいさつ **３　自己紹介** 委員及び事務局の自己紹介 **４　社会教育委員の役割** 事務局より説明 **５　県・東濃・市の方針と重点** 事務局より説明 **６　平成３０年度の活動計画（案）** 事務局より説明 **７　社会教育委員会代表・副代表の選出** 委員による推薦で決定→承認 代　表　　有賀　秀雄（学識経験者） 副代表　　小栗　正敏（社会教育関係者）

８ 各種委員等の選出について

事務局より提案→承認

- 岐阜県社会教育連絡協議会評議員　有賀秀雄
- 東濃地区社会教育振興協議会理事　有賀秀雄
- 青少年育成市民会議四部会　小栗正敏、羽柴誠、龍頭美雪、永井研
- 美術展運営懇談会参加者　酒井周文
- 図書館協議会委員　吉田生子
- 点検評価委員　安藤隆宏

９　平成３０年度の研究テーマについて

【事務局】
①瑞浪市の社会教育の特徴として活発な公民館活動が挙げられ、社会教育委員の研究テーマとしても、平成２６年度以降、公民館活動の研究と提言を行ってきた経緯がある。
②県・東濃の方針と重点や、県が実施する研修内容、岐阜県ＰＴＡ新聞の記事等から、地域・家庭・学校の「協働」が今般の社会教育におけるキーワードの一つになっているという現状をふまえ、今年度のテーマを決定してはどうか。

【委　員】
現在、市内の各公民館はそれぞれ知恵を絞って様々な事業を行っている。他方で公民館活動の指導者の育成という課題も大きいと思う。また、指導者や育成者のみでなく、子どもも協働の中に含まれていくことが理想だと考える。

【委　員】
公民館活動を俯瞰して思うのは、主な参加者が子どもとその祖父母世代であるということ。子どもの親世代、真ん中の世代が消極的。学校行事や他団体の活動と重ならないよう、スケジュールを調整することが「協働」に向けた具体的な活動になるのではないか。また、瑞浪北中学校の開校にあたって日吉、釜戸といった各地域の特色や子ども達の愛着が薄れることが心配。

【委　員】
平成３０年度より『生涯学習・社会教育振興の方針と重点（岐阜県環境生活政策課）』に「地域づくり型生涯学習の推進」が加えられたことから、「地域づくり」が公民館活動や、協働の具体的内容になり得るのではないか。

【委　員】
テーマを広げすぎると青少年育成市民会議の活動と重複する部分が出てくる。公民館活動に主眼を据える事である程度具体性が見えるので、公民館活動の研究に係ることはテーマに盛り込まれていることが望ましい。先ほどご意見のあった学校統合に関する懸念（地域の特色、愛着の希薄化）については、瑞浪南中の先例を見ると、陶地区の子どもが稲津地区の行事に参加したり、その逆であったりと、むしろ地域活動の活発化につながっていると感じる。

【委　員】
公民館活動に関する広報、告知等の情報を集めて集約することで課題や提言すべきことも見えてくるのではないかと思う。

【委　員】
地域との協働は、学校教育の中でも意識され続けてきたテーマである。学校教育の現場にある苦労や課題を見つけ、除去することが協働の推進になってくるのではないか。

【委　員】
瑞浪地区については公民館とのつながりをあまり感じられない。市民の方に公民館活動に興味を持ってもらうことが重要ではないか。

【委　員】
瑞浪地区、土岐地区、明世地区について、中央公民館が地域の公民館の役割も持っているという意識が市民に根付いていないというのは、確かに感じるところである。中央公民館の活用と促進については、引き続き市に力を入れていただきたい。

【委　員】
皆さんの意見を聞いて、瑞浪市の社会教育の核は公民館活動だと改めて感じたが、そういった認識で良いか。先ほど意見のあった真ん中の世代の問題にも繋がるが、人口ピラミッド等の統計データや各種団体の構成員をデータとして集約することで、公民館活動に対する提案もより具体的で実情に沿ったものになると考えるがどうか。

【委　員】
人口ピラミッドなど、公表されている数値や名簿であれば集約は可能だと思う。

【委　員】
公民館活動が瑞浪市の社会教育の核であるというのは、この会議において共通認識を得られていると思う。事務局の提案を叩き台にテーマを作る場合、公民館を「拠点に」という言葉を使うと、公民館活動に限定される感じが強くなるので、公民館活動を「通じて」社会教育のあり方を考える、とするべき。

【委　員】
地域づくりというテーマを盛り込むにあたり、具体的な活動として、社会教育委員が地域と学校とのパイプ役になるということは可能だろうか。

【委　員】
瑞浪北中学校の開校にあっては、日吉地区、土岐地区、明世地区、釜戸地区、大湫地区の子ども達が集まり、それぞれの地区の子ども達がそれぞれの地区の行事に参加する。各地区の行事予定を集約し、学校に情報提供することで、地区の垣根を越えて行事に参加しやすくなるかもしれないし、学校側も各地区の子ども達の動きを把握しやすくなるかもしれない。

【委　員】
皆さんから出された意見により、社会教育の推進に関する課題が大分見えてきた所であるが、①地域づくり②公民館活動の重要性③協働という３つのキーワードを今年度のテーマにしていくことについては、合意を得られたと感じる。ついては、３つのキーワード及び本会議において出された意見をふまえ、当該文言を盛り込んだ上で今年度のテーマ（案）を作成することを事務局に一任してはどうか。***＜異議なし＞***

１０　その他（研修に係る情報提供）

事務局より説明。
　６月２４日（木）に恵那総合庁舎で開催される第１回社会教育主事等研修会兼地域コーディネーター等研修会については、以下の人員で参加することとする。

有賀秀雄、小栗正敏、羽柴誠、安藤隆宏、酒井周文　及び事務局２名

　第２回社会教育委員会（定例会）は７月１７日（火）１４：００から、内容については「先進地区の事例からの学び」を予定。講師の西村先生には、先ほど協議された「地域づくりに向かって地域・家庭・保護者が協働していくこと」と「公民館活動を通して取り組んでいく」というキーワードをお伝えする。

（文責　野田）